

【事業報告書】

HKFA審判委員会 女子部

稲葉里美さん 女性初の道リーグ主審！



- 大会名 : 2022年度第45回北海道サッカーリーグ
第12節 ノルブリッツ北海道FC — ASC北海道
- 日時 : 2022年9月11日(日)10:00
- 場所 : 札幌サッカーアミューズメントパーク(天然芝)

■稲葉里美さん(女子1級審判員)のコメント

今回、北海道サッカーリーグ第12節ノルブリッツ北海道対ASC北海道の主審を担当させていただきました。割当が決まり、大変光栄なことと思うのと同時に、自分に務まるのかという不安が募りました。たくさんの方のご配慮もあり、このようなチャンスが巡ってきました。後押ししていただいた審判部の方にも大変感謝いたします。

私の目標とするところは、スムーズなゲームコントロールとフェアでタフなサッカーを選手がストレスなく90分出来る環境を整えることです。今回の試合でもそうですが、目標に掲げているゲームコントロールはまだまだ遠いものだと感じました。事象1つ1つ見ていくと、反省すべき点の方が多く、自分の知識不足で選手にストレスを与えてしまったこともあったと思います。

今後はこれがきっかけとなり、北海道の女性審判員が様々なカテゴリーのレフェリーを担当していくことが通常になること、色々な刺激を受けつつ、女性審判員も活躍できる環境を作っていけたらと思います。今までこの道を作ってくれた先輩方にも感謝し、切磋琢磨しながら成長出来る審判仲間と共にこれから学びを忘れず、努力していきたいです。ありがとうございました。



北海道女子サッカーリーグ閉幕

- 日時 : 2022年9月10日(土) (最終節)
- 場所 : 札幌サッカーアミューズメントパーク(人工芝)

阿部恵理子

コロナ禍であり様々な制限の中、女子道リーグの活動に参加できたのは数回でした。審判員として素早く判定、基本的なシグナルをきれいに、チームワークを大切に、この場所に立てる事に感謝の気持ちを忘れずという思いはいつもありました。無事にリーグ終了を迎えられ来年度に向けての準備が始まります。皆様と共に北海道のサッカー発展に貢献できるように努力致します。



阿部 美季

まずは今年も道リーグ全試合が無事に終了したことを嬉しく思います。私は仕事の関係で限られた試合のみの参加となってしまいましたが、沢山の方に試合を見て頂き、学んだことが沢山ありました。チームの戦術によって動きを変えてみたり、声掛けを積極的に行うなど、自分なりに意識した挑戦もすることが出来たと思います。まだポジショニングで迷ってしまうこともありますが、少しずつでも改善していきたいと思います。来シーズンに向けて、また頑張っていきたいと思います。



大村 美詞

今年度は主審として道リーグに関わらせて頂く機会が多く、今までよりも審判団としての責任感やリーダーシップを意識することが多かったです。また、沢山の試合を担当させて頂いたことを本当に感謝しています。ありがとうございました！来年度も頑張ります。



山田 歩美

今回道リーグの審判をさせていただきました。久しぶりに審判を行って、競技規則の改定や新型コロナウイルス対策など様々なところで変わっていることもありました。また1から学び直すいい機会となりました。色々なご指導を聞き、これからは繋げていきたいです。

女子審判員研修会

- 大会名 : 2022年度第31回北海道高等学校女子サッカー選手権大会
兼第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会北海道予選
- 日時 : 2022年9月17日(土)・24日(土)
- 場所 : 室蘭市入江運動公園陸上競技場、多目的広場
- インストラクター : 大岩真由美(サッカーS級審判インストラクター)
蝦名 隆幸(サッカー2級審判インストラクター:女子部)
※24日は室蘭地区の3級インストラクター研修会と同時実施
- 参加者 : 17日 高橋柚葉(3級審判員)
24日 稲葉里美(女子1級審判員)、阿部恵理子・阿部美季(2級審判員)



高橋 柚葉

2日間、インストラクターの大岩様、蝦名様、室蘭地区の審判員の皆様、全道大会という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今回は、副審を3試合、4審を1試合務めさせていただきましたが、どの試合においても円滑に進められるようなサポートができたと思います。特に、審判員だけではなく選手とも笑顔でコミュニケーションを図ることで全員が楽しく80分間走り抜くことができたと思います。研修に参加することで、新たな審判員との出会い、自分の武器や改善点、審判員同士で審判の楽しさの共有や学びがあり、今後に活かしたいです。また、選手、審判員の私が女性同士であることでお互いコミュニケーションが取りやすく、とても楽しい試合であったと共に、女子選手が活躍している姿に感動しました。この出会いや経験に感謝し、北海道のサッカーを盛り上げるために、試合経験を積み努力を楽しんでいきたいです。



稲葉 里美

高校選手権北海道予選の試合を担当させていただきました。準決勝は全国高校選手権の代表決定戦という、高校生にとって1年間の集大成の場です。その大切な試合を任されたことを大変光栄に思います。室蘭地区の皆様、悪天候の中準備など色々なところに配慮してくださり、ありがとうございました。天気は良くなかったのですが、落雷や雨天による中止を想定し、審判団と運営の方々とは相談して、今自分の出来ることを何か考え、それぞれで把握し、何か起きた時に冷静に対応できるように心がけました。試合については、判定するような事象が少なかったのですが、今回の1番の事象についてははっきり判定することができました。ただ、振り返りの時に映像を確認すると判定までのスピードはやや遅く、説得力という面では良くなかった印象があるので、判断は早めに心をかけて次回の課題としたいと感じました。また、選手もひたむきに最後まで集中して挑んでいたのが、判定で大きな差を無くすよう、必要に応じて説得力のある距離を意識しました。



阿部恵理子

3級INS研修+女子研修会(合同)に参加させて頂きました。試合後の振り返りで事象の分析や個々の考えを発言しました。雨の中ではありますが、副審として基本的な事はしっかり主審とのアイコンタクトをとる、シグナルきれいに、走りきる、集中を切らさないよう心がけて入りました。INSの方々のアドバイスを頂き、良いところ、課題を知る事ができました。今後の参考とさせていただきます。今回、合同研修という貴重な経験をさせていただきました。場所、環境を提供して下さった室蘭地区サッカー協会の皆様、北海道サッカー協会審判委員会女子部関係者の皆様、この場をお借りし深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



阿部 美季

女子研修+3級INS研修に参加させて頂きました。試合の振り返りとしては、主審では普段よりもポジショニングや走り出しの部分を意識して、普段とは違う動きも取り入れながら走ることが出来ました。久しぶりに延長戦、PKを行ったこともあり、セレモニーの流れが不安になることがありましたが、稲葉さんをはじめ皆さんに助けて頂きました。悪天候の中でも、精一杯やり切れたので良かったと思います。INS研修では、稲葉さんの試合をもとに振り返りを行いINSの方々がどんな視点から試合を見て下さっているのかを知ることが出来ました。何度も振り返ることで事象を冷静になって考えることが出来ました。貴重な研修に参加させて頂き、ありがとうございました。





■ 大岩真由美氏 (S級INS) より



今回、オホーツク協会所属の高橋柚葉さん(3級)がバスに7時間揺れながら、遠路はるばる室蘭に来てくれました。まずは、地元の運営の方々、一緒に組む審判の方々へしっかりと挨拶をしている様子に安心しました。やはり**審判活動において大切なところは、知識やテクニックよりも、まずは運営して下さる方々へ挨拶、感謝の気持ちなど礼儀。**古くさい考えと思われるかもしれませんが、私は今でもそう思っています。高橋さんの副審を観たときに、彼女の走りに目が止まりました。スピードはもちろん姿勢もキレイ、攻守の切り替わりもスムーズで表情も堂々としてとても良かったです。今後の活躍に期待します！

今回は高校女子選手権準決勝を使用して、室蘭地区3級インストラクター研修と、HKFA女子審判研修の初コラボで開催しました。6人の3級インストラクターが実際に担当した審判員に「試合後の振り返りを体験する」というコマでは、皆さん不慣れではありましたが、**それぞれの良いところが沢山あり、それを皆で見つけ伝える**こともしました。女子1級稲葉さんを中心に良いリーダーシップのもと、阿部恵理子さん、阿部美季さん共に、個人のパフォーマンスも以前よりもアップしており安心して見ていられました。4人で協力して、悪天候ではありましたが、とてもポジティブに取り組んでくれた様子を見ていて、皆たくましくなったなあ嬉しい気持ちになりました。研修会が終わり解散するときに、室蘭地区の皆さんから女子審判の皆さんに「頑張ってるね！応援してるよ！」と言って再会を約束していて、とても微笑ましい姿でした。

今回の初コラボ研修、どちらにとっても有意義な内容の濃いものとなりました。**会場設営や様々な準備をして頂いた室蘭地区鈴木審判委員長、そして映像サポートして頂いた蝦名部長、何より疲れているはずなのに、研修も笑顔で参加してくれた女子審判員の皆さん、本当にありがとうございました！**

1級・女子1級・強化指定審判員研修会

- 大会名 : 第101回全国高校サッカー選手権大会北海道大会
- 日時 : 2022年8月14日(金)～16日(日)
- 場所 : 旭川市東光スポーツ公園球技場 他
- 参加者 : 稲葉 里美(女子1級審判員)
- ワザパー参加 : 高橋 柚葉(3級審判員)
オホーツク地区ユース審判員(3級審判員)
- 講義の内容 : 14日(金) 20:00～21:00
講義1 「審判員として良い試合を作るには」
15日(土) 19:00～21:00
振り返り(全体会)
講義2 「さらなるステップアップのために」
講師 JFA前審判委員会委員長 黛俊行氏





稲葉 里美

この選手権大会は、私もですが高橋さんたちにとっても大変貴重な経験をさせてもらったと思っています。黛さんの貴重な講義や男子審判員との意見交換など、3日間でたくさんの学びがありました。試合は高校選手権の男子の試合ということもあり、今までやっている試合とは違う雰囲気やスピード感などもあり、緊張感がより一層ありました。このような舞台上で女子審判員が多く活躍できることが今後増えていけば、素晴らしいと感じました。また2人の学ぶ姿勢や積極的に行動している姿を見て、とても頼もしいと感じました。この経験を生かして今後の活躍も期待しています。

高橋 柚葉

私は、今回初めての男子高校選手権全道大会で、4thを務めさせていただきました。北海道トップレベルのチームが争う試合で観客も多い場所で審判を務めるということが私にとって未知な世界であり、より責任の重要さや今までにない緊張感を体験しました。また、沢山の審判員やインストラクターのサポートがあり楽しく終わることができました。実技において自信を持って行えた点は、ベンチからの判定に対する異議への対応、負傷者・交代・アディショナルタイムが同時に起こった際の優先順位を考えながら落ち着いて対応ができたことです。また、反省点は、4thの役割を理解していながらも、予測が足りていなかったり、予測不可能なことが起こったりと、瞬時の判断と的確な対応ができなかったことです。これらの体験から得た学びがとても大きく今後の実践に活かすための事前準備を徹底して行いたいです。実技においては、トップレベルの審判員方の行動や対応について近くで見学することができ、自分の疑問点や試合中で意識していることを聴くことができたことは宝物です。講義の中でのディスカッションでは、自分にはない審判員個々の視点があることが分かり、改めて「審判員」について深く考えることができました。また、選手の望みや意図を汲み取ることが審判員に求められる要素の1つだと学ぶことができました。黛氏の講義で特に印象に残っていることは、経験や勘、直感に基づく知識である「暗黙知」を図式化や文字化し、説明・表現できる「形式知」にし、それを定着化(自分のものにする)させることが大切であるということです。JFA前審判委員長、インストラクター、1級審判員、初めてお会いした上を目指す審判との出会いや学びから、自分の審判像をイメージすることができました。これらの学びを今後の活動に活かしていきたいです。3日間、全道大会という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

オホーツク地区ユース審判員

今回はこのような貴重な機会を与えて頂き、本当に有難うございました。女子ユースが今大会に参加するのは初めてだと知り、このように様々な場で活動させて頂けることは私の審判活動を支えてくださる全ての方々のお陰だと改めて感じ、これまで以上に感謝の気持ちが強まりました。第四審判を務めさせて頂いた際には、研修会初日の議題であった「審判員として良い試合をつくるためには」ということを常に考え、選手firstの気持ちを忘れず、緊張感を持って取り組むことができたと思います。試合を終えて自分自身、今後の課題にしていきたいと感じた点は、“コミュニケーション”です。これは選手だけではなく、チーム役員・審判団・本部・担架要員など試合に関わる全ての方々とのコミュニケーションです。良い試合を作り上げる為にはこれらの方々との協力は必要不可欠です。そのため、審判員である私が自ら試合前・試合中・試合後に様々な方とのコミュニケーションを大切にすることで、選手との信頼関係も築くことができ、より良い試合づくりにも繋がると思いました。1級・女子1級・強化指定審判員の方々と共に活動させて頂いたことで、今までとは異なる雰囲気の中で本当に沢山の事を吸収することが出来ました。審判員に限らず、試合の関係ないところでも多くの方々に声を掛けて頂き、始終緊張していたにも関わらず、とても楽しく充実した3日間を過ごす事が出来ました！この研修会を通して吸収出来たことを少しずつでも実践し、自分の力に変えていけるよう頑張ります。改めて、今回はこのような貴重な経験をさせて頂き、本当に有難うございました。



5R ～一歩一歩着実に～